

第 2 回議会報告会(平成 22 年 11 月 2 日(火) 北部公民館)

1 部 議会報告に対する意見・質問ならびに回答

問: 条例第 3 号。議員定数を審議する過程の中で議員報酬も一緒に審議をされたのかどうか。

答(井上智): 関連性が高いので意見は出ました。定数を削減するので報酬を上げたらどうか、若手などより立候補しやすい環境を作ってはどうかと云う意見、また、報酬を削減する中で定数を維持してはどうかと云った意見も出ましたが、とりあえずは、定数の問題に絞って審議をしました。今、議会では議員報酬の問題も検討していこうとしていますし、市民の方からも検討委員会を作ってはどうかという提案も頂いているところです。これからも議論を重ねていきます。

問: 若い世代に借金をまわして、問題が先送りをされている。若手議員を育てるためには報酬を上げて良いが、高齢者の方が高い報酬を取るのはいかがなものか。若い世代が政治に関心を持ち、議会へ出やすい環境づくりをしてほしい。多くの若い議員が出てもらうためには議員報酬を上げたらどう思う。女性はもちろん、30 代の若い世代の事を考えてほしい。

答(山下): いい意見だと思います。報酬を下げたらいい、上げたらいいと両方の意見があります。定数を削減すれば議員も専門性が要求されます。兼業では出来なくなってくるのではないかと、そういった事を思うと、やはりしっかりと報酬を出しながらやっていくのがいいのではないかと思います。

問: 議案第 57 号。教育長の任命について、市が提案された方を議会が何回も否決されているが、議会側のスタンスは、どのように考えておられるのか。

答(西川): これまで兵教大の立派な先生を候補に挙げられたが議会で 2 回とも否決になりました。否決された方は地元の方が良いという理由でした。今回、新たに教育長候補として提案された塩見氏はロンドンの大学も出ておられ、大変立派な方です。しかしながら、提出された年月日に誤りがあるなど誤解を招いた。その後、修正がされたが、結局は否決されました。その後、改めて吉田廣氏を提案され全会一致で承認されました。吉田氏は、地元栄町の出身で校長や教育委員も経験されている立派な方です。遠回りはしたけれど結果的には良かったのではないかと思います。

問: 議案の提案について、9 月議会の中で議員提案というのはあったのか。

答(山下): 今回は、議員定数の提案を致しました。

問: 議員提案が少なすぎる。もっとドシドシ出して欲しい。

答(森元): 全国でも議員提案を出している所は非常に少なく、今まさにそのことが問われています。加西市も提案できるような議会になりたい。そのように努めています。

答(森田): 6 月議会に提案をしました議会基本条例も我々の方からの提案であります。これを作成するにあたりましては、準備に 2 年間も費やしてやっと出来上がったものであります。また、提案するにしても内容が限られてきます。市長側は、執行権に基づきいろんな提案が出来るわけで提案数については、遥かに多いわけでありまして。我々は、それらをチェックする議会本来の役目に時間が費やされてしまっている状況であります。

答（西川）：議会の定数は他市よりも少ない。議会側からすると厳しいが、市民のためにがんばります。

2部 意見交換 加西市の未来像（少子高齢化社会における人口増対策等）について

問：まだいろいろな面で市の力がない。交通の便（病院等市内の）が悪い。仕事がない。高齢者世帯が多い。他市に比べて良いところがない。

答（山下）：雇用の関係について、加西市は4箇所の工業団地があります。そこで働いておられる加西市の方は33%です。また、イオンは1,200人の内、半分が加西市の人ではありますが80%アルバイトといった雇用形態です。加西市に住んでいただけるような魅力ある街づくりを目指して、議会も頑張っていきたい。

答（森元）：公共交通につきましては、昨年まで国土省と一緒に加西市の交通をどうするか審議をされてきましたが、まだ具体的にはなっていません。西在田の地区からデマンドタクシーのように各地域を回るような交通体系を作るという計画がありますが、まだ具体化されていません。地域で事情も違いますが、各地域での努力も必要ではないかと思えます。

問：人口増対策は、国・県・市の地元がそれぞれの役割があるが、一言で言えば住みやすい住環境を作る事である。そのうち、1点は雇用対策。働ける場所の確保。2点目は、子供を増やすにはどうすれば良いかを考えたらい。政策提言としてお母さん方の出費を少なくするにはどうしたらいいのかを考えて、1つは、誕生祝金、出産祝い金と入学祝金を地域で独自でもうけている。市も議会もやっつけていかなければいけない。

答（山下）：働かざるえない環境になってきています。加西市民の年間所得は、150万から250万円の間で65%もおられる。市として出来ること、地域として出来ることがあります。ただお金を与えたらいいわけではありません。若い世代には、小野市のように乳幼児医療制度で中学生まで無料は魅力的。これまでも議会で色々と言ってきたのはいるが、この場でも意見をいただきたい。

問：学校に関しての意見を言いたい。学校とは、簡単に合理的に集約できる問題ではない。学校の統廃合問題は、地域が要望して初めて統廃合される。淡路にしても20人30人になってから初めて統廃合にいたっている。学校が無くなると地域の力が失われる。次第にJAやガソリンスタンドが無くなってしまふ。これは、人口が多い北条にも大きく影響がある。

答（西川）：パイロットスクールの案が出ました。あの時に賛成していれば学校は建っていました。今、宇仁小は耐震診断をしています。その結果次第で即建てるという事になります。来年を待つしかありません。善防中で手抜き工事がありましたが、あそこで一番早くに小中一貫校が出来るという感覚でいます。

答（森元）：学校問題は大きな課題。当局側は、再配置計画として素案を出しています。地域として声をあげてほしい。小中一貫校と小中一貫教育は違います。必ず施設を一体化しなければいけないということではありません。施設の問題と教育の問題が一緒になっていま

す。市民の声として地域に学校が必要だとドンドンと言ってほしい。議会も予算等に対応します。